

令和3年度第2回立川市第3次観光振興計画協議会 要旨

会議名称	立川市第3次観光振興計画協議会
開催日時	令和4年2月4日（金曜日） 午後7時00分～午後9時00分
開催場所	立川市役所302会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 産業文化スポーツ部長挨拶 3. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について（報告） <ol style="list-style-type: none"> 1. シェアサイクルの導入について（施策5-2、6-1） 2. 観光案内所機能の整備について（施策4-1） <ul style="list-style-type: none"> ・「立川市魅力発信拠点施設コトリンク」について ・東京観光案内窓口の充実について ・「JR 東日本 駅たびコンシェルジュ立川」について 3. たちかわおみやげ品発見スタンプラリーについて（施策2-2） 4. 立川シティハーフマラソン ONLINE について（施策2-2） (2) 意見交換 <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光データ分析について 清水委員より話題提供 2. PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン（案）について 前田委員より話題提供 4. その他
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 立川市第3次観光振興計画マネジメントシートについて 2. 立川市シェアサイクル実証実験について 3. 立川市魅力発信拠点施設 CotoLink 「特産品販売&カフェ」について 4. JR 東日本グループニュース(駅たびコンシェルジュ) 5. たちかわおみやげ品発見スタンプラリー報告 6. 立川シティハーフマラソン ONLINE 7. PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン（案）概要
出席者	<p>[構成員]</p> <p>会長 岩崎太郎、副会長 岩下光明、田中光徳、片桐庸行、戸島慶太、穂積計人、清水哲夫、青木祥民、木嶋雅史、千葉雄太、矢ノ口美穂（産業文化スポーツ部長）</p> <p>[オブザーバー]</p> <p>一般社団法人立川観光コンベンション協会事務局長 田島氏</p> <p>[事務局]</p> <p>奥野武司（産業観光課長）、津崎政人（観光振興係長）、菅野賀陽（観光振興係）、太田眞実（観光振興係）</p>
欠席者	前田千歳
話題提供者	立川市交通対策課 （庄司交通対策課長、有馬自転車対策係長、梶自転車対策係主事）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果及び要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. シェアサイクルの導入について報告事項と、意見交換を行った。 2. 次回日程は令和4年7月頃に開催予定とする。
担当	産業文化スポーツ部産業観光課観光振興係 電話 042-529-8562

1. 開会

2. 産業文化スポーツ部長挨拶

お忙しい中、お繰り合わせいただきまして本当にありがとうございます。こういう状況下でございまして、皆様、それぞれのところで、色々とお慮されている点があるかと思いますが、こういうときだからこそ、各方面の皆様、ご意見をいただきながら前進していきたいと思っておりますので、本日もご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 議題

(1) 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について

1. シェアサイクルの導入について（施策5-2、6-1）

(事務局)

本日の資料の確認ですが、本日の次第を1枚、資料1として、「立川市第3次観光振興計画の戦略と政策マネジメントシート」、資料2「立川市シェアサイクル実証実験について」、資料3「市魅力発信拠点施設 CotoLink「特産品販売&カフェ」について」、資料4「JR 東日本グループニュース(駅たびコンシェルジュ)」、資料5「たちかわおみやげ品発見スタンプラリー報告」、資料6「立川シティハーフマラソン ONLINE」、資料7「PRIME 観光都市・東京 東京観光産業振興実行プラン(案)概要」となる。資料7に関しては、本日、東京都の方で正式に実行プランの発表がされたということで、資料の差し替えを追加でメールを送らせていただいた。

それでは議題の1、第3次観光振興計画の進捗状況について説明する。計画の進捗状況については、資料1「立川市第3次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート」の中で、令和3年度までの取り組み状況をお示しさせていただいた。本日はその中から次第に掲げている①から④の項目に絞って、進捗の報告をさせていただく。

まず、①のシェアサイクルの導入について、それでは交通対策課よりお願いしたい。

(交通対策課)

「立川市シェアサイクル実証実験について」は令和4年4月の実施の目途が立った。現在、シェアサイクル事業者と調整している段階で、主にポートの設置について調整をしている。まずは官民連携で公共施設等に設置出来るところはないか、最終調整している状況。

資料で「目的とターゲット」を整理している。目的は、回遊性の向上、アクセス性の向上の2つの視点から地域交通の補完と定めている。また、ターゲットは、市民・来街者と2つの視点で設定。3ページ目の概要については、事業者は、オープンストリート株式会社というソフトバンク系の事業者決定をした。全国で60自治体、都内では14自治体と広域で相互利用が可能となる。実証実験期間は3年間を予定しており、この4月1日から令和7年3月31日を予定。提案の概要は、24時間、365日貸出・返却ができ、電動アシスト付き自転車を配備。また、放置自転車対策は徹底するという事で聞いている。

シェアサイクルポートの設置については、ただいま公共施設を中心に調整を進めている。まだ申請が通っていない段階なので、具体的にどこに置くかは伝えられないが、約20ヶ所、100ラックを軸に、市の中で駅周辺を中心に設置を進めている。今後、公共用地以外に、民間商業施設等に設置を進めていく予定。

今後の取り組みは、4月1日に向けて準備を進めており、申請が通り次第、現地の整備に入る。福生市が4月1日に同じシェアサイクルのブランドで開始予定であり、利用促進に関して、連携を取っていく予定。

移動データについては業者が決まったので、もらえるデータを画面上で表示させていただく。データについては、色々な種類があり、それぞれ有償・無償あるが、そこについては、まだ調整が終わっていない。必要なデータを選び、毎月若しくは年度単位でももらえる予定。データを使い、回遊性がどう向上しているかを可視化していくことを考えている。このデータをできれば市の他の施策にも横展開していきたい。また、委員のお知恵を拝借し、有効に活用していきたいと考えている。

(副会長)

現在のレンタサイクルがなくなり、シェアサイクルに移行するの点、また、商工会議所で電動キックボードの実証実験を行っているが、情報共有を行う考えがあるのかどうかを教えてください。

また、ポートの最小単位とサイズ、すぐ設置が可能かどうか等を教えてください。

(交通対策課)

1点目のレンタサイクルについて、現在、レンタサイクルが2つあり、1つは市が直接行っている事業であり、こちらは継続する。もう1つは、指定管理者が自主事業という形で実施しているT-BIKEで、これも継続する。

2点目の電動キックボードは同じ時期に事業展開をしているが、電動キックボードは国の実証実験であり昨年の10月末から事業展開をしている。今、ポートがすごい勢いで増えている。今のところ、市としては国の法整備等の動向を注視しているところである。また、電動キックボード事業者のBRJと話をする機会があるが、安全対策を重視している。私共も、安全対策の共有は常に行っている。具体的にポートの共有という話はしていないが、実際に出張で新宿に行った際に、都道の途中で自転車とキックボードが置いてあるのを見た。将来的な可能性については検討する必要がある。

3点目のポート設置の最小単位とサイズだが、最小単位は3台、ポートのサイズは1台辺り60cmが3台分で横に180cm、看板1つが横幅は60cmなので、全部で2m40cm、奥行は自転車が大体180cmなので、約190cm位となる。

(C委員)

この実証実験の際に、一般のお客様に貸出すのは無償か、それとも有料かを教えてください。

(交通対策課)

料金は有料である。ここで料金改定を行うので最終的な金額を伝えられないが、単位としては30分単位で何円ということ、あとは最大12時間で何円というパッケージとなる。

(C委員)

利用している際に事故にあった場合、保険等はどのような形でやるか決まっているのか。

(交通対策課)

事業者を募集する際に、条件として、歩行者に対する賠償や、乗っている方に対する保険は義務付けているので、そこについては安心して乗っていただける様な整備はされている。

(B委員)

保険に関して対物や車との事故で自転車が破損した場合、どこまでの補償されるのか教えてください。また、放置に対してGPSを活用して放置対策を検討されるとのことだが、検討の範囲なのか、構想を練られているのかを教えてください。

(交通対策)

現在、事業者と協定を締結する準備中であり、保険の細かいところは今後詰めていく予定。ただ、他の自治体でも協定締結の実績があり、保険内容としては充実したものでないと我々も認められないというスタンスの為、充実した内容で加入をさせる方向である。

2点目の放置の問題は、ポート前に放置されてしまうというパターンがあると思う。それは、事業者が巡回しながら確認していく。私共が懸念しているのは、ポート付近に誘発されて放置自転車が増えてしまう、周りに置かれてしまうことが可能性としてあること。その場合はポート以外の場所の為、市の対応になるかと思う。放置自転車区域であれば条例に基づいた対応ができるが、放置区域でない場合は工夫が必要になるので、そこを事業者と相談しながら考えていきたい。まずは、放置されない場所にポートを置くことが必要だと思うが、放置をされないような仕組みをちゃんと考えていきたい。

補足だが、協定締結前だが既に提案の中に具体的な数字があり、対物・対人共通で3億円の賠償というような内容で提案はきている。

(B委員)

それは利用料の中で我々利用者は保険料を賄うというシステムになっているのか。

(交通対策課)

原資がどこにあるかは分かりかねるが、自転車単位でTSマークを取って保険対応をするのが一般的であるが、おそらくシェアサイクル事業者なので、事業者として保険に加入しており、その原資は含まれているという認識でよろしいかと思う。

(B委員)

放置の件で、ポート近くに放置されるという説明だったが、全くポートの無いところに自転車を置き去りにしてしまう状況が発生した場合は、回収や、利用者に対する利用制限等は何か検討しているのか。

(交通対策課)

ポートにはセンサーがあり、そこに前輪をはめないと返却扱いにならない。例えば山の上に返却した場合、ずっと課金はされ続ける。よほどお金に余裕がないと、そういったことができないという前提がある。ただ事例として、かつて放置された事例があり、その際は莫大な金額になったタイミングでクレジットカード会社へ請求し、その後はクレジットカード会社のやり取りになる。利用者への今後の貸出しができなくなるというペナルティがあるのも聞いている。

(G委員)

最初にポートを自分達の置ける場所だけで、その後にポートを増やしていくと思うが、計画として最大何台を目指すという計画があれば教えていただきたい。また、先程、オープンデータが取れるという話があったが、データはこういうデータが欲しいというのを増やすことが可能なかを教えて欲しい。あれでフィックスなのかどうかを教えていただきたい。

(交通対策課)

今後、どれ位の規模を目指していくかはあくまで事業者からの提案ベースだが、ステーションとして120ステーションを目指していく。既に市内でスーパーやドラッグストアの敷地内に設置はされているが、そこに公共施設も合わせて、現時点ではスタートは20ヶ所の設置を検討しており、その6倍を3年間で目指していくということを事業者と話している。

2点目のデータは、システム上取れるものと取れないものがあり、ラインナップとしてはこれが最大限、このラインナップの中で無償のものはもらえるという前提。有償のところを市がお金を払うのか、条件を出してもらおうのかという方向で調整をしていくことになる。

(D委員)

国営昭和記念公園も1000台以上の自転車があり、どんな方法で行うのか気になっている。車両やシステムのメンテナンスをどのような形で業者に制限や規制をかけているのか教えていただきたい。

(交通対策課)

車両のメンテナンスは、特にこちらでは規制等は設けていない。ただ、安全面や、快適に利用していただく為に定期的な充電は必要であり、そこはしっかり行うように条件書の方に盛り込んでいる。我々も開始以降は、状況を注視し、逐次、こちらからプッシュしていく予定。

(D委員)

基本的には借りられる方がブレーキやタイヤのエア等の不具合を確認した上で乗っていただくことが条件ということでもよろしいか。

(交通対策課)

利用者に事前にタイヤの空気圧を確認した上で乗ってください、という様なご案内はしない。我々としてはまず、利用者は借りた段階で安全に利用できる前提でシェアサイクル事業者については整備をするようお願いをしている。利用者が確認をしなくてもそういった状況を確保できるように、市としては注視していきたい。

(D委員)

多分、GPS等で走行距離やバッテリーの残量というのは確認でき、その辺をソフトバンクのノウハウとして持たれていて、適宜、タイヤ交換やブレーキパットの交換等を行うことが前提で、立川市としては契約されているという認識でよろしいか。

(交通対策課)

その通り。ずっと同じ自転車が市内にいる訳ではなく、他自治体から使い込まれている自転車も乗

り入れる可能性がある。ただ、事業者はその自転車がどの位使用されていて、バッテリーがへたってきているかは把握できているはずなので、古い物の取り換えについては、こちらからも申し上げていく。

(会長)

前回、E 委員から電動キックボードとシェアサイクルの関係等について話をいただいたが、何かその辺の情報を E 委員からいただけないか。

(E 委員)

今のご説明と議論を聞いて、感じたことを何点かお伝えする。1 点目は、先程話題になった、BRJ、キックボードの話で結論から言うと、両方が上手く空間的に、利用形態的にも連携できたら良いと思う。今、南大沢でも似たような議論をしているが、例えば自転車の良い所は、かごがついているということ、キックボードについては路面が荒れていると辛いこともあり、お年を召した方や女性だとキックボードが辛いこともあるかもしれない。人の操作能力とか、年齢で自転車とキックボードが上手く棲み分けができることもあり得るのではないかと最近、感じている。

今、互いに調整をしないまま進んでいる気もする。ポートの位置の設定や、初期の設定は仕方ないにしても、今後増やしていくことを考えた時に、両方の利用形態の調整を図り、互いに必要な所を拡充していくことをぜひ取り組んでみてはどうか。

2 つ目のデータの話は、依頼して加工したデータはもらえないということか。生データはもらえないのかどうか伺いたい。

(交通対策課)

基本的に加工されたもので毎月のデータが出てくるという認識だったが、生データがもらえるかは交渉の余地があると思うので、確認する。

(E 委員)

加工を依頼すると手間がかかるので有償だという気もするが、無償だとほぼシステムログ的に取れているので、無償のデータというのは、どの程度利用されているかという全体の傾向把握には使える。もう少し分かりたいと思うと、どこで借りて、どこで返されたかというデータや、どの経路を通っているのかというのは、特に観光の絡みでいうと重要だと思う。

生のデータではなく、加工データしかもらえない時は、よく考えないと無駄なデータを購入することになる気がする。もし多少有償でも生データをもらえるのであれば、我々でデータを解析するものを一度組み上げておくと、あとは自動的にできる。例えばどこかの大学等を巻き込んでやってみるとか、そういうことはできるのではないかと、聞いていて思った。

また、例えば、初期に公共施設の近くに設置をし、状況をみて民地も含めて拡大していく時に、どういう所が足りないのかを追加していこうということを効率的に実際のデータから見て埋めていく場合に、重要なデータになる。初期に設定するポートはその後動かさないとと思うので、それは設定してしまい、今後追加していく際に、どういう所に設置していくとより使用されるかを、こういったデータから推測していく、その様なことに有償系のデータを使っていける気がする。私から今の 2 点をお伝えする。

(副会長)

アプリで今、どこに何台余裕があるのかっていうのが確認できるシステムということでよろしいか。

(交通対策課)

アプリ上でどこに何台貸出しができる自転車があるのか、そのポートで何台返却できる余地があるのかを見ることができ、充電状況等も全てアプリ上で確認ができる。

2. 観光案内所機能の整備について（施策 4-1）

・「魅力発信拠点施設コトリンク」について

(事務局)

それでは②の「観光案内窓口機能の整備について」を説明する。1 点目、立川市魅力発信拠点施設「コトリンク」は、市が所有する 1 階スペースに地域特産品やカフェ機能をもった空間がオープンす

る。これまで運営事業者である株式会社まちづくり立川と事業のコンセプトや施設の機能等に関する調整を行うとともに、それらを踏まえた施設のしつらえについて、本体工事に反映すべく、東京都との協議を重ねてきた。令和4年6月の開業にむけ、現時点での施設の進捗状況について報告する。

まず、事業のコンセプトは、地域特産品の販売や飲食物の提供、イベント開催等を通じ、立川だけでなく多摩地域及び姉妹都市大町市の魅力を伝え、新たな人々の交流や賑わいを創出する場、としている。運営事業者が計画している特徴としては、地域の魅力発信、交流と回遊性の創造、学びと文化、立川市と多摩地域のゲート機能の4点を掲げている。

施設内の空間構成と機能については、施設内は「物販エリア」と「飲食エリア」の2つのエリアで構成され、店舗全体の名称を「LULUTerrace」、物販エリアを「のーかる BAZAR」、飲食エリアを「JIBAR CAFE」としている。物販エリアの「のーかる BAZAR」では、毎日集荷する新鮮な立川産の野菜や果物、畜産物のほか、加工品や立川観光協会推奨認定品の販売に加え、多摩地域の特産品の販売や観光・イベント情報の発信、また姉妹都市大町市のアンテナショップとして地酒や特産品の販売、大町市の観光情報の発信等を行っていく。営業時間は10時から20時を想定しており、仕事帰りに地元産の野菜を買いたいといったニーズにも応えることができると考える。飲食エリアの「JIBAR CAFE」は、物販エリアで販売する立川野菜をはじめとした食材で老若男女問わず楽しめる健康志向のメニューや、多摩地域各地と連携した限定メニューのほか、時間帯に応じたアルコール等の提供など、季節感を味わえる工夫を凝らしていく。

営業時間は8時から22時までを想定しており、コトリンク3階の情報発信センターや様々な地域団体と連携した、にぎわい創出のためのイベント等も実施する予定。今後のスケジュールは、今月には工事が竣工。その後、完了検査等を経て、4月に市から運営事業者へ行政財産の使用許可を行い、開業準備を経て、6月に開業を予定。なお、現在、多摩モノレール立川南駅近くにある「立川市・大町市観光情報プラザ」は令和4年3月末を持って閉店。運営事業者である株式会社まちづくり立川の副会長が本日出席してされているので、何か補足説明があればお願いしたい。

(副会長)

現状ものーかるという地元野菜を販売している場所だが、もともとは地域課題解決ということで、農家が直売所だと自分達で持っていかなければならないということがあり、当社では集荷に周って地元の野菜をその日取れたものをその日食卓に届くように、そのハブになろうと事業を行ってきた。そういった機能を盛り込んだ中で、フードロス対策、SDGsに関連する部分でも、今度はカフェが併設されるので、廃棄物の出ないように検討している。

また、カフェは交流が生まれるようにという部分では、アイドルタイムに例えば、地元の介護関係の企業に来てもらい、常に介護相談会を月曜日にやっている、火曜日は税務相談がある、そういった地域事業者との連携でアイドルタイムを活用して交流の場所になるとも考えている。その他にも、イベントカフェとして、1週間、くるりんカフェというのがあったり、ウドラカフェがあったり、そういう楽しさを満喫できるカフェ運営ができればと考えている。

(G 委員)

のーかるではいつも買い物しており、助かっている。こちらのオープンを楽しみにしている。「JIBAR CAFE」はキッチンが併設されるが、イベント的に農家を呼んで、地場野菜を使った料理教室みたいなものは、やろうと思えばできるのか。

(副会長)

農家のおかみさんカフェみたいなものを開催したいという企画としては挙がっている。保健所の対応も含め、詰めている段階。

(H 委員)

ここで週末等に定期的にイベントを開催する予定はあるのか。

(副会長)

既存の店舗で「のーかる土曜日」というのをやっており、毎週土曜日に近隣の新規就農の農家や、少し離れた場所にあるパン屋を呼んでいる。それは継続的に行おうと考えている。また、生産者に実際に呼ぶイベントは出来れば隔週位でやっていきたい。

2. 観光案内所機能の整備について（施策4-1）

- ・東京観光案内窓口の充実について
- ・「JR 東日本 駅たびコンシェルジュ立川」について

（事務局）

「東京観光案内窓口の充実について」説明する。関連事項として「JR 東日本駅たびコンシェルジュ立川について」も続けて説明する。市は、立川駅周辺の大規模商業施設等において、対面式のインフォメーションコーナーを設置されている点に着目し、立川散策等のまちの観光スポットを紹介する冊子の配布等にこれまで協力いただいた経緯もあることから、東京都に申請することで指定を受けられる「東京観光案内窓口」への申請についても、各施設へご協力をお願いしてきた。この度、令和3年12月に新たに「ルミネ立川店 インフォメーション」が指定を受け、3月よりサービスを開始すると伺っている。そのほか、JR 東日本ホテルメッツ立川、東横 INN 立川駅北口も同時に指定を受けている。既に登録済みの「GREEN SPRINGS インフォメーション」、「立川高島屋 S.C.インフォメーション」と合わせて、立川駅周辺に5か所の窓口が整備される状況となった。加えてエキュート内にある「東京観光情報センター多摩」を含め、案内体制の充実が図られているところである。また、東京観光案内窓口ではないが、立川の玄関口であるJR 立川駅に、観光案内の役割を持つ場所として、「JR 東日本 駅たびコンシェルジュ立川」が2月1日にオープンした。この点について、関連会社の事業ということでC委員より補足いただければありがたい。

（C委員）

以前まではJRのビュープラザという旅行会社としてやっていたが、今年2月1日から駅たびコンシェルジュ立川ということで開業した。駅たびコンシェルジュは3つのポイントがある。1つは旅のコンサルティング、2つ目が地域情報の発信、3つ目は地域連携との交流、この3つを大きなコンセプトとしてコンシェルジュをやっていく。ただ、そもそも交流とは何かということだが、今までビューの旅行商品は対面で商品を売っていたが、2022年3月末までに全て商品の販売をオンライン化していくことを目的としている。その中でこの駅たびコンシェルジュは弊社が出している大人の休日倶楽部会員や、シニア層の方、訪日の旅行をされているお客様をターゲットとし、ご案内、旅行の提案、旅行の相談所ということで、電車から旅行先までを提案、相談させていただき、そのオンラインの販売を手伝うのが駅たびコンシェルジュの主目的である。

その他には、東日本エリアだけでなく、立川周辺や多摩エリアの情報発信拠点としてもやっていくことも考えており、地域の皆様と連携し、何か新しいアイデアを作り出せないかということもポイントとして挙げているので、引き続き連携等できていけたらと考えている。

（会長）

地域連携の部分というのは、商工会議所や観光協会と何か既に始められているのか教えていただきたい。

（C委員）

具体的には始めていないと聞いているが、この旅行会社のコンシェルジュの中の情報発信サイト「アンドトリップ」というものがあり、ここを連携しながらやっていけないかと立川市とも話をしているとコンシェルジュ担当からは聞いている。今後、例えば、店内にモニターもあるので、素材等があれば流すことも可能であり、やってみたいことは連携できるかどうかを協議しながらになるが、情報発信できる手段を考えていきたい。

（事務局）

事務局から補足として、現時点で1日より観光ガイドブック「立川散策」やファーレマップ、立川の1つのメインコンテンツとして置いていただいている。

また、シティプロモーション動画をモニターで流していただく予定。今後、市が連携した中で作っていく動画等も、適宜そこで配信していただくようなことができればと担当者と話をさせていただいている。

3. たちかわおみやげ品発見スタンプラリーについて（施策2-2）

（会長）

議題の③「たちかわおみやげ品発見スタンプラリーについて」をA委員から報告をお願いしたい。

（A委員）

まず、このスタンプラリーは例年、秋に防災基地エリアを中心に各公官庁を回るイベントを行っていたが、それぞれのイベントがコロナの関係で中止となり、このスタンプラリー自体ができなくなったことから、市と相談してこのスタンプラリーを実施する運びとなった。

開催期間は、2021年11月23日から12月5日まで、期間的には44日間開催した。イベントの趣旨は今、推奨認定品として観光協会が認定している商品を知ってもらうことと、お土産品は知っているがお店を知らない方に知っていただくということで実施した。

参加店舗は16店舗。認定されている店舗は全部で18店舗だが、そのうち2店舗は実店舗が無いということで、不参加となった。

スタンプラリーの賞品は、集めたスタンプに応じて賞品をプレゼントする企画とし、コンプリートした方には抽選でソラノホテルの宿泊券をプレゼントした。A賞はスタンプ9個以上で、ホテル食事券をプレゼント。お手元の資料で本数のところが3になっているが、2ということで修正をお願いしたい。ホテルの食事券は2本ということで準備した。B賞はスタンプ6個で、こちらはレストラン食事券となり、DANRAN亭、F.あら井、アダムスオーサムパイで賞品を準備していただいた。C賞はスタンプ3個以上で、推奨品の詰め合わせを11本用意した。立川観光協会賞はスタンプラリーに参加いただき、ツイッターでこのスタンプラリーについて広報いただいた方を中心にプレゼントするという取り組みをした。今回は30本用意した。

イベント自体の総参加者数は188名、スタンプ数は367だった。このサイトの総閲覧数は1,672であった。このスタンプラリー決まってから実施するまでタイトなスケジュールとなっており、十分な広報ができなかったが、総閲覧ということで1,672であった。

今回応募された方の住所は、1番目は立川市内で37名、都内多摩地域が26名、23区が4名、それと東京以外の関東ということで17名、関東以外は4名の参加をいただいた。続いて、参加いただいた方の性別は男性が31名、女性が60名で、圧倒的に女性が多かった。年齢は30代の方が非常に多かったという結果であった。50代の方も20名で、今回のデジタルということもあり、高齢の方についてどうかと思ったが、60代も6名の参加をいただいた。

職業は、会社員が1番多く42名、次にパート・アルバイトが18名、公務員が17名という結果だった。イベントは誰と回ったかという質問は、1人で回った方が圧倒的な数を占めていた。続いて、ご家族と、それと友達と続いている。

参加した事業所に対してのアンケート結果も取りまとめている。各店舗を回って、1つでも商品を買いたることを条件に加えていたが、今回は無料と有料、どちらが良いかという質問については、圧倒的に有料の方が良いという回答だった。理由は売りに結びつくということ、立川にもこういった美味しいお店がたくさんあることを知ってもらう為にも、来て買ってもらい、味わってもらうことが大事ではないかという意見もあった。また、このスタンプ欲しさに一番安い物を探して購入していた方もいるとの意見もあったが、今後の検討も踏まえた、次回につなげていきたい。

また、無料が良いという意見は、幅広い方により参加してもらう為には、無料の方が参加しやすいという意見だった。

今回、デジタルで実施をしたが、紙とデジタルどちらが良いかと質問をしたところ、回答はデジタルが6名、これはコロナの影響もあり、非接触というのが好まれたという見解だ。この中で紙が良いという意見の中には、上手く携帯の操作ができない、非対応の携帯の方がいたということを見ると、紙でも良いのではないかという意見もあった。若い方は問題無いと思うが、慣れていない方は紙の方が参加しやすいのではないかという意見もいただいた。デジタルについては、昨今のゴミ問題でデジタルであればゴミが出ないので良いという意見もあった。

今回の企画で良かった点、改善点を質問した。良かった点は、スタッフの手間も最小限で済み、大変良かったというご意見、それと普段あまり利用しない年齢層の方も多くみえ、新しい顧客の開拓や、そういったものに結びつくことができたことと好評であった。また、手持ちの端末でQRコードを読み取

って参加できたので、読み込めばすぐにスタートできるので非常に入り易かったのではないかという意見もあった。

改善点としては、告知が遅かったこと、それと他のスタンプラリーとも被っており、店の方も混乱したという意見があった。また、今回たまたまだが、インフルエンサーが DANRAN 亭に来て、イベント PR をしてくれたことは非常に良かったとのことで、今後はそういった方も参加、または協力をしてもらいながら PR していくのも良いのではないかという話もあった。

今後、特典等々を付けることをできるかという質問については、付けられる、また、付けられないとそれぞれ回答をいただいた。また、開催時期の希望については、他のイベントと被ってしまうと非常に参加される方も、お店も対応が厳しいという意見があったので、そういったものも見据えながら、今後に繋げていきたいと思う。今回、初の取り組みとなったが、今後はこの時期に立川でこういったお土産品のラリーを恒例化していければと考えている。

(H 委員)

今回、紙とデジタルのどちらが良いかという話があったが、デジタルにしたことにより、参加されている方の属性や、そういったデータは取って次に繋げることはできたのか教えていただきたい。

(A 委員)

今回、デジタルということで、かなり詳細な情報が取ることができた。今後、そういったものを活かし、ターゲットを絞った形での運用が出来るのではと考えている。

(G 委員)

スタンプラリーが被ってしまったことは、調整する役目の人がいないから被ってしまったということなのか教えていただきたい。

(事務局)

この点は市から説明したい。もともと、このスタンプラリーは「体験スタンプラリー」という形で箱根駅伝の予選会に合わせて実施していたイベントであり、10 月頃に必ずやっていた。その後「くるりんスタンプラリー」という違うセクションのスタンプラリーがここ 2、3 年被っている時期に開催されており、どちらかという市が調整すべきなのかもしれないが、先行していたところに、それが入ってきて重複した事象が発生したという状況である。この点についても、例えば 7、8 月にずらず、お土産なのでお盆の時期、帰省の時に合わせても良いのか等、そういう検討は今、始めている。ただアンケートを見ると 7、8 月に事業者は開催を求めているので、バランスを取りながら次年度は実施していきたい。

(副会長)

総予算は何円位だったのか、またインシヤルコスト的なものとランニングで何円位かかったということが分かれば教えていただきたい。

また、私見ではあるが、スタンプラリーはイベントよりも街のインフラにした方が良いと思っている。10 個貯まったら何かという、あそこの街で買い物するとそれが貯まる、だからもう 1 回行こうという使い方も、観光視点ではイベントからインフラにというようなこともありかと思う。

(事務局)

観光協会に委託している事務局の人件費は除いているが、事業にかかったコストとしては、景品も含め 55 万強である。

2 点目のスタンプラリーをイベントから街のインフラ的な形へという話は、今回、デジタルスタンプラリーを市内で行政も関わってやった初めての事例だった。実は今、商店街連合会に委託をしていて、今年の 3 月から連休明けの 5 月にかけて子育て応援のキャンペーンをデジタルスタンプラリーでやろうと準備している。それは商店街連合会に委託をしているが、今回、観光協会で行ったデジタルスタンプラリーは既にある事業者が作った仕組みをデザインだけ今回用に塗り替えて、使用料を事業者へ払う形で行ったが、商店街連合会に今回お願いしている部分は、今後、ある商店街の単独でイベントをやる際に、例えば、南口のいくつかの商店街で合同のイベントを行う際に、そういう形で共通で使えるフォーマットを商店街連合会に作って、それ以降は商店街の活性化のために自由に使っていただくような開発についても併せて委託の仕様に含んでいる。数年でインフラというところまで行くかは不明だが、これまで紙でやると準備にも時間がかかる、ゴミが生まれてしまう、印刷等

のコストもかかるものがデジタルの場合は、準備期間が圧縮されるので、今後に向けては今回行うキャンペーンをインフラ整備のような位置づけに市としては考えているので、今後、色々な形で活用に繋がっていくことを期待している。

4. 立川シティハーフマラソン ONLINE について（施策 2-2）

（会長）

議題④「立川シティハーフマラソン ONLINE について」ということで、I 委員からお願いしたい。

（I 委員）

立川シティハーフマラソン ONLINE というところで、初めての試みを今年やってみようと思っている。立川シティハーフマラソンは長い歴史もありながら、コロナ禍もあり、2020年、2021年と2回続けて中止が続いており、今年3年目を迎えている。現時点では3月13日にリアルのハーフマラソン大会をやる予定で、そちらは車いすマラソンや、日本学生選手権、箱根駅伝で活躍した選手も多く来る予定である。開催予定ではあるが、2カ年続けて流れてしまったこともあり、協賛いただいている事業者や、体協関係者等、オリンピックが終わったばかりでせっかくスポーツ熱が盛り上がってきたところで何かをやって欲しい、せっかく間が空いたのであれば、ぜひ新しい魅力作りを仕掛けて欲しいという強いご希望があり、初めての試みとして、本番の2週間前になるが、2月27日にオンラインのマラソンイベントを初めてやろうと思っている。

せっかく立川で開催するのがオンラインなので、立川でなくても日本全国どこからでもアプリで参加は可能だが、立川を走っていただき立川の街の魅力、風景を写真でアップした方には更にダブルチャンスで良い物が当たるという企画もしている。

何分、初めての試みで現在、まだ募集期間若干残しているが、ご興味ある方、5kmのウォーキングからでも参加できるで、ぜひ参加いただいて、一緒に街を盛り上げていただければ嬉しい。

（2）意見交換

1. 観光データ分析について（E 委員）

2. PRIME 観光都市・東京 東京観光産業振興実行プラン（案）について（J 委員）

（会長）

議題の(2)の方に移らせていただく。今日は情報の提供ということで2人の方に準備いただいていたが、J 委員は参加できないので、そちらは書面だけでご勘弁をいただきたい。今日は E 委員より「観光データの分析と活用について」ということで話をお願いしたい。

（E 委員）

先月に事務局からデータ系で話題提供して欲しいと依頼があり、観光情報プラットフォームについて前回、話をさせていただいた時に、無料、もしくは有償のものもあるが、インターネットベースで自分の地域の経済状況や人流、そういった分析ができる時代になっているという話をし、例として、RESAS、それから観光団体でやっている観光予報プラットフォームについて話をさせていただいた。2つ目の観光予報プラットフォームは宿泊に特化したプラットフォームで、立川は宿泊施設も多いので、こういうものがどう活用できるかということに興味があり、その点について話題提供していただきたいという依頼があった。2点目として、色々なデータでマーケティングを行う時に、通り一辺倒の満足度調査みたいなものだけだと、そこからの施策展開へつながらないというケースが多いという趣旨の話をした。そういったものをオーバーカムしている事例があれば紹介していただきたい、RESAS や観光予報プラットフォームではなく、独自の意識調査の様なものから、観光データマーケティングにつながる事例を紹介して欲しいということだが、後者は正直言うと、上手くやっているとこもあると思うが、そういうところは逆に情報が出てこないということもある。2番目は私が関わったある自治体の取り組みを少し紹介するのにとどめておこうと思う。今日の話は最初の観光予報プラットフォームで出来る事について、資料はないが、画面共有をして観光予報プラットフォームそのものをいじって立川について皆さんにイメージを持っていただきたいと思う。導入が長くなったが、画面の共有をさせていただく。

観光予報プラットフォームにログインすると、トップページになっている。まず、観光予報プラッ

トフォームが何かについて話すと、JTB や大手旅行会社を取り扱っている宿泊の実績、それと予約のデータを用いて、国が行っている宿泊旅行統計の調査と掛け合わせ、自治体別、日別にどういふ宿泊の実績があり、また今後6ヶ月間でどのような宿泊数になりそうかという技術を使い、将来の計算をして会員登録をしているユーザーに提供するサービスである。大体、1年位前の情報だが、会員数は13,390、このうち有料会員が何人かは不明だが、有料と無料は何が違ふのかというと、もちろん有料の方が機能は多いが、端的に言うとも、有料会員にならないと良いサービスは受けられない。最初は無料会員でも色々なサービスがあったが、コストもかかるので、必要な費用は取ろうと、何年か前からは無料会員の機能が大幅に縮小した。自治体だと、普通の民間企業よりは安めの月5,000円か8,000円位の負担で年間約10万円。この位の負担でこれから実際に操作してお見せする様な面白いものが見られる。これを用いて、どの様な適用事例があるかというのは、サイトを見た後に、この資料に戻って説明するとして、私が仕事の関係で有料会員になっているので、有料会員のサービスをお見せする。ログインをすると観光予報プラットフォームの自分の設定したページになっているが、分析の対象地域を立川市とし、基本的にまず、今週は日別の宿泊の予想をしているのが、それは画面に表示しているものである。空いているが、昨年同時期よりは多い。こういった予報を、先程紹介した様に大手旅行会社等の宿泊予約データを入手し、昨年の実績とそれから現在の宿泊数のトレンド等を使って予測をしている。また、本日、どういふ属性の人が立川市内に泊りにきているかという構成比、どういふグループなのか、どういふ宿泊の単価なのか、こういったものを構成比として示し、どこの方が今日お泊りになっているかというランキング、都道府県別に示したりできる。今はインバウンドが来てないのでデータ入っていないが、インバウンドが来ている時期は、国籍も入っている。

予報からいくと、2月1日から7月末位まで6ヶ月間を表示しているが、オレンジ色は予測値になっている。この予測値は今までの実績、昨年までのこの時期の実績と、それからここで青い線で示している。現在、このデータをいただいている旅行会社等の予約実績、ここが定期的に入れ替わり、先の方になると今のデータは信頼できないが、だんだんこの青とオレンジが近づいていく。今、見ていると2月24日に多く予約が入っていて、宿泊本数、これは国公立の二次試験の前日かと思う。大学試験を受ける為にたくさんお泊りになっているのだと思う。それから3月5日、11日、この辺も入試かと思う。あるところで凄く予約が入り、宿泊の予測が高いところはなぜかと考えると、そういったイベントや、そういうものとのリンクでたいぶ説明ができる。直近1、2ヶ月位の増減で、少し立川としてこういった宿泊されている方に、どういふおもてなしをするのか、数量的なイメージをこういふことで全体的に理解することはでき、そのような目的でまずは使うということ。それから、これもインバウンドが来ている時期だと国内とインバウンドを分けて集計されるが、この予測が立川市の様にそれなりに宿泊の実績もあり、宿泊の部屋数数としてもあるような地域だとあまり問題にならないが、すごく宿泊施設の少ない地域、自治体だと、インバウンドのデータがほとんど入っていないので、インバウンドの予測ができない。国内の宿泊者数も、たまたまその自治体のあるホテルで大口の予約があると、それがものすごく予測上で拡大されることになり、予測地をみると、自治体の総部屋数を超える様なおかしな事が起きたりするのが実態である。ただ立川市位の規模だと、そういふことはないと思うので、少なくとも、国内の宿泊については、今後またコロナの影響がなくなれば、それなりに予測性の高い結果が立川であれば出せると思う。

例えば、2021年、1年間で日毎にどんな宿泊数だったかを一応、その予約実績と実際の宿泊者数のデータを使って、去年の1年間の状況がでてくる。実際に見ると、さっきと同じように国公立入試の前日は、多くなっている。3月27日、28日、4月など、一時的に多くなっているが、こういった宿泊実績にピークがあるところは何か理由がある。4月22日、あとは8月27日、11月27日はすごく多い。ここに前年比、一昨年比っていうのはあるので、それぞれボタンを押すと、青色が去年、2021年のデータ、1日毎の宿泊で、オレンジが2020年。緊急事態宣言に入っていたこの時期は本当に人が入っていない状況であり、それからその緑色は2019年なので、コロナの影響がない時期で、ここと見比べるとどれ程減っているかが分かる。日にちの集計なので、年によって曜日が違ふが、曜日をおけるといふ意味では正しい見方になると思う。また、ここに季節・イベントがあったり、この予報プラットフォームにデータベースとして入っているイベントは出すことができる。11月20日はイルミネーションのお祭りがあったようだ。ここに登録されているイベントがあると、ここに表示で

きるので、イベントがたくさん登録されていると、どういうイベントがより宿泊に結びについているのかが分かる。

昨年のサマリーというのか、2021年1年間で大人と子供でどういう宿泊の構成比だったのか、それから参加形態、女性グループが45%だが、皆さんの感覚と合っているのかどうか。1人、これは業務系や受験とかそういうものが多いと思う。夫婦、カップル、男性グループ等。コロナの時期なのであまり家族が入っていないと思うが、こういうものを見て、どういう宿泊層が弱いかを理解したり、単価も他の自治体と見比べた時に、高いのか安いのか、他の自治体との比較を通じて、より宿泊単価を高めていく必要があるのか、ないのかというのは実績として分かる。また、どの地域からより宿泊されているのかということ、基本的には神奈川県、なぜか兵庫県、こういうところから1年間通じてたくさんのお泊があった。こういったことが分かる。

また、クロス集計、色々な機能が有料会員だとついてきて、色々な分析ができる。また、地域のポテンシャルもあり、例えば、買うというのを出すと、データベース上で商業施設、こういった集客施設としてデータベースとしてここに入っている。右側を見ると観光庁がデータ提供していることになっているので、こういったものを例えば自治体で会員になって登録できるのか、事業者自身が登録できるのかというのは何かやり方があるのかもしれない。今のは観光庁が持っているデータベースで登録しているので、正直言うと充実していない。こういうものがたくさん入ると、観光のポテンシャルを理解する1つのデータベースとして、すごく有効かなと思う。また、標準として観光投稿レポートみたいなものを、自治体を指定すると、自動的に出す機能もついているので、年間約10万を組織で準備し、こういうものに会員登録すると、宿泊という意味では、立川レベルならば、信頼できる環境が整っていると思う。もっと詳しく聞きたいのであれば、次の対面環境があった時に、現場で操作をしてお見せすることは可能だ。またその時に、実際見て、質問等を受付けたいと思う。また、実績については無料会員だとグラフは見ることはできるが、数値を見ることはできない。

例えば、白馬村のケースだと、この観光予報プラットフォームのデータと気象データと地域で取っているデータを自分達で機械学習をさせるモデルを作り、自分達でこの地域の宿泊数の予測値を数値化することで、飲食店の仕入れの調整や、リフトのオペレーションに必要な人数など、そういうものを自分達で割り出している。複雑な統計的なモデルを使って、予報プラットフォームのデータを一部使用し、自分達で予測精度をあげている。また、伊勢の老舗の飲食店では、観光予報プラットフォームの伊勢辺りの宿泊数の予測値を使用し、この人数だとうちに何人来そうというのを彼らの中でデータを蓄積し、この予測値からダイレクトに次の日にどの位の食材を用意しなければいけないのかを自分達で仕組みを作っているという事例がある。これは有料会員になり、標準機能として提供されるデータを見てデータを入手し、自分達で別の取り組みで予測精度を上げる等、予測値を使用し自分達のビジネス、資材調達や、人員調整等、そういうものに使用することがアプリケーションとして想定されるサービスとなっている。こういうものを見たときに、立川の観光のチームとして、何かこういうことが出来たら面白いのではないかとということがあれば、ご相談いただければ、私の方でもどういうことが出来そうかを考えてみたいと思う。これが1つ目で、2つ目の話は、また次の時に改めて話します。

(F 委員)

私も旅行会社で宿泊データを見て色々な企画を考えてきたが、先程のデータを年間15万円以内で入手できたら、お得だと思う。正直、旅行会社に居て見ていたデータよりも見易く、予測し易いと思う。それで泊まった人がどういう経済動向をしているのかということも知りたいと思っていて、これに加入されて活用した方が良いと思う。

(事務局)

今の流れで、観光消費額、経済の流れも、ある程度指標で分かったりするのか。さっきの消費額をどれ位使用しているかグラフがあったが、例えば、今年度はどれ位平均値で使用しているとう様な額がプラットフォーム上に表示されたりするのか。

(E 委員)

先程のものは宿泊単価だけで、全部の旅行消費ではない。全部の旅行消費は、こういうデータもそうだが、クレジットカードのデータや、さっき議論になっていた様なアプリでのスタンプラリー等、

ああいうものを通じて消費額の調査をただとか、色々なものを通じて消費額の推計というのではできると思うが、この予報プラットフォームは、宿泊だけはかなり細かく取れるというもので、別途、例えば、来訪客に消費の動向を調査する様なものを併せることで、立川市としての消費額がどの位かということはある程度、推計できるとは思う。

(事務局)

先程の場面で、人流データというダブがあった気がするが、人流はどういったデータなのか教えていただきたい。

(E 委員)

人流データは新たに作ったもので、私自身、把握していない。別のデータソースを使用しているかもしれないので、そこは調べておく。

(会長)

他にはよろしいですか。次回、リアルで会議ができる時に、ゆっくりとお願いしたい。J 委員に情報提供をいたどうかとしていた PRIME の件は、どうするのか。

(事務局)

事務局も内容は説明できないので、あくまで参考資料としてご覧いただきたい。また、メールで詳細なプランのものを送っているので、ご興味があれば、そちらをご覧いただきたい。

4. その他

(会長)

全体の中でも、今日説明のあったものの中でも、あまり細かく触れなかった進捗状況でも、何か委員から質問や意見、また情報提供があれば、お願いしたい。

(G 委員)

立川に情報発信する拠点がぞくぞくと出来てきていると感じるが、それぞれの特徴や棲み分けを整理していく動きをしていった方が良いと思うが、どう考えているのか教えていただきたい。

(事務局)

市として明解な答えはないが、立川市の特徴として、ザ・観光地の様に駅前に観光案内所があるという形は難しいという現実がある。その中で、その周辺にインフォメーションコーナーを持つ商業施設が集積していることを活かし、観光案内窓口が増えてきたこと、タイミングよく駅たびコンシェルジュが開設されたこと、コトリンクができたという所がある。まさにこれからその形をどの様に伝わり易く作っていくのかというフェーズにきていると思う。ただ、リアルではなくて、デジタルの情報を1つどう充実させていくかというのも大事になるので、そこをどうバランスを取るかというのを、これからコトリンクも含めて考えていく段階にきたと市としては考えている。

(副会長)

コトリンクに入るうちのお店で意識している情報発信は、他はパンフレットを置いたり、位置情報であったり、その場の情報だけだと思うが、例えば、八王子の八王子ラーメンが美味しいという情報があったら、それが食べられるとか、そういった生で提供できる情報発信を意識していこうとは思っている。

(G 委員)

その棲み分けと、観光計画を立てたときの話で、コーディネーターというか、街の案内ができる人、コンシェルジュ、そういった存在を育成していかないといけない、そしてその体験をメニューとして揃えていく、そういったところに観光の動きとして、どんな仕掛けをしているのかをお聞きしたい。

(事務局)

現状、市単独ではワンストップサービスで何でも答えてくれるところはない。それを観光案内コーナーという窓口サービスセンターに一度人を常駐して行った時期もあったが、ほとんど観光客が来なかった。まちの案内人も週末常駐をしてもらっていたが、全くニーズがないという検証で止めてしまった。ただ、同じタイミングで東京観光情報センター多摩がオープンしたのも影響したかもしれないが、そういう検証結果が出ている。

立川の観光地としての特性上、その観光だけでわざわざ泊まって、ここで遊び尽くすというのは多

くないのかもしれない。そういった意味でザ・観光地と同じような窓口を設けるのではなく、違うアプローチを模索している。コーディネーターをどう位置づけていくかはまさにこれから、拠点ができてきた次のフェーズでどの様にやっていくか、研究の段階である。

(G 委員)

現状がよく分かった。

(事務局)

D 委員に質問です。今、大規模イベントがコロナで止まり、10年弱続いたまんばくも撤退が決まった。今後、昭和記念公園でアフターコロナを見据えて、公園としての役割や、今までのように大きなイベントの誘致を模索していくのか、はたまた違ったアプローチで公園のあり方を考えていくのか。検討している事や、考えがあれば、話せる範囲で教えていただきたい。

(D 委員)

これについてはお察しの通り、ただお客様を集めれば良いという時代ではないことはあきらかであり、その辺りの考え方も、公園だけではなくて、政府はもちろん、東京都、もちろん立川市や昭島市、近くの行政の考えも踏まえ、どのようにお客様をお迎えしたらいいのかということを日々模索しながらの状況である。その中で、今、公園としてできる施策は、皆様が行っている様な手洗いや、三密の対応、その他に人が集まるような遊具の利用規制を行う等、公園全体についてもまだ今も規制を行いながら運営している。その中でも公園の状況を皆様にできるだけ頻度よく伝える為に、SNSの活用や、HPで適宜、公園の状況を伝えることにも務めている。

コロナが収束すれば、すぐにでもお客様に安心して来ていただけるよう、舵をきれるような体制を整えておくこと。ただ今は、皆様も同じ状況かと思うが、家族で出るとスタッフが出勤停止や、非常に事業継続が日々難しくなっている状況。今日も園内配置のスタッフの家族にPCR案件が出て、そのスタッフが来られないということもあった。また、COCOAで近くで会ったという通知があり、休むということも頻発している。コロナに日々対応していきながら、できることを最大限務めるというところが今、答えられる範囲である。

(会長)

私から1件聞きたいのですが、今、コロナの影響で東京でも転出する方が増えていると報道が出て、周辺の千葉県の流山に人が移動している等、色々話が出ているが、立川市としてコロナの影響でこういう影響があったとか、何か目に見える数字で把握できているような事象は起きているのかを教えてください。

(C 委員)

コロナの影響で言うと、電車を利用するお客様が少なくなっていることが一番大きなところだ。あとは地域の皆様との連携、駅から観光の玄関口ということで、まずは立川駅に人が来てもらわなければいけないというところでは、我々も含め電車に乗っていただければ、鉄道収入もあり、これから立川がどんどん魅力発信していければ、立川に人が降りて、地域を潤してもらえる。その中で何か大きなイベントをすることができたり、昭和記念公園との連携であったり、色々な所と連携をし、地域を盛り上げていくことができないかというところが今、一番大きな部分だと思っている。社員も色々なイベント計画、あずさの55周年でイベントを縮小しながら粛々と開催したが、JR単体だけのものになると、地域の皆様と連携をして何か大きな施策を打ちたいと思っているが、先程もあったように、うちの社員も濃厚接触者になって出勤できないことが多くなっているのが現状であり、イベントを打っても、イベントができないことが続いているところが一番大きな影響としてあると思う。何とか第6波も兆しが見えてきているので、歩みは止めず、計画はしていくことを常に考えているが、何かウィズコロナでできることをしっかり考えて、新たなことをやっていかなければいけないという半面、やはり昔と一緒に地域の根ざして何か新たなアイデアを持ってやっていくことが重要だと思う。以前、会長からも立川の自由通路で何か大きなイベントができないかと話もいただいたが、立川市も参加しているので、何かアイデアを見出していければなと思う。引き続きコロナが落ち着いてくるのが見えてきているところなので、連携していければなというところが一番である。

(事務局)

立川市からも、今まさにC委員から話があった通り、来訪者の落ち込みはもう確実に立川市も影

響を受けている。数字ではまだ見ていないが、オミクロンの拡大を受けて、週末の商業施設の人の入りが大分減っており、この感染拡大を警戒される方が増えているという意味では来訪者の落ち込みがまた短期的に出ているというのはある。

一方で先程、流山市というのがあったが、定住人口、データは見ていないが、東京都から減ったって言われているが、多分、多摩地域は増えている所があるらしいので、23区圏からは千葉県とか、首都圏から違う地域へ出ているが、多摩地域は流入しているところも一方であるので、ある意味、チャンスと捉えて、今後、シティプロモーションと連携しながら、動ける良い機会だという認識である。C委員より話のあった自由通路の件は、ちょうどグランデュオ立川が今、地域に寄り添うというコンセプトでコンコースを上手く使いながら盛り上げていきたいと話している。立川駅にも話に行かなければと話していたので、立川駅もグランデュオも含め、駅の商業施設と通行人のバランスを取りながら、上手く賑わいの1つの拠点として使っていければと思う。

(会長)

国勢調査の結果は出ているのか。

(事務局)

国勢調査はデータが出てくるのに時間がかかる。5年に1度の調査で、特に立川の場合、昼夜間人口比率は前回の調査からこの間で大分増加している結果が出るのではと思います、いつ公表されるかと確認はしている。今年中に、少し詳細なデータが出てくるのではと思っているが、まだ確認できていない。RESASのデータでは、やはり昨年の状況、コロナ前の状況に比べると、明らかに落ち込みがデータからも見て取れ、国勢調査はコロナ前の状況だと思うが、それがまたこの間にどうなっているかというのは、注目したいところだが、そこまではまだ確認できていない。

(会長)

次回の日程を含め、事務局から連絡事項をお願いしたい。

(事務局)

来年も2回の開催を予定しており、今の予定だと7月から8月の頃に1回、同じ時期の2月頃に1回と考えている。その都度、進捗状況を伝えながら、皆様の意見、より良い検討をしていきたいと思っている。

(会長)

最後に、副会長から閉会の挨拶をお願いしたい。

(副会長)

お疲れ様でした。先程のデータを聞いて宿泊施設とつながるのも大事だと感じた。次回まで間が空くが、皆さんそれぞれの立場で切磋いただければと思う。本日はお疲れ様でした。

令和年度 第2回 血市第3次観光振興計画

協賛会 R4.2.4 Fri

② 観光案内所機能の整備

① 特産品販売&PR
のPR... 豊後県産品 (資料3)
2F OR SDGs
地域課題の解決を目指す!

③ E5のおおむね品発見

29-75リ (資料4)
R3.10/23 ~ 1/25 実施
男性 < 女性
30歳代が最も多い
29-75も、60歳代も60%
推奨 認知症

血市第3次観光振興計画 進捗状況について

① エイサイトの導入 (資料2)

有償の予定
R4.4/1 ~ R7.3/31
244/365日
ポト100% (銀魂)
回遊性 (PR) 3
自標!! (20%)
ポト (3年間で)
福至と連携
Q. 今の状況は? => 知性
Q. ポト設置の可否? => 安全対策は共通!!
Q. 設置の場所? => 駅周辺
Q. 設置の理由? => ポトは市の対応 (前年度に比べる)
Q. 設置の時期? => R4.4/1 ~ R7.3/31
Q. 設置の費用? => 利用者負担と増設の必要に...

② 東京観光案内窓口

「L」系 III
「X」系 III
「東」系 I
New!!
JR東日本 (資料4)
馬場公園

④ 血市サイト754 Online (資料4)

観光9分折に112 (春委員刊)
「観光9分折」サイト「U」有料版 10-15万/年
http://kanskyouchou.com/ (お得!!)
Q. 観光9分折の活用? => まさかのポト
Q. 観光9分折の活用? => 宿泊者数の増加
Q. 観光9分折の活用? => 観光客の増加
Q. 観光9分折の活用? => 観光客の増加

⑤ 電車&行先とポトの連携

Q. 電車&行先とポトの連携? => 検定中
Q. 電車&行先とポトの連携? => 検定中
Q. 電車&行先とポトの連携? => 検定中
Q. 電車&行先とポトの連携? => 検定中

PRIME 観光都市-東京 (何回委員刊)

R4協賛会 (院) R4.8/R5.2
消費額は? => 消費額は? => 消費額は?
消費額は? => 消費額は? => 消費額は?